

# 景気回復のウソ

2兆円の営業利益があった「世界のトヨタ」が一気に5000億円の赤字に落下した。これで多くの日本人は「100年に一度」の経済危機を実感したのだが、トヨタの儲けがこうも簡単に吹っ飛んだのはなぜか。

「リーマン・ショックで、北米で自動車が売れなくなったから」というのも理由だが、大きいのが円高だ。昨年9月のリーマン・ショック前まで為替は1ドル＝105円から110円の円安で推移してい

た。それが米金融危機でドルが売られ、半年あまりで80円台に突入してしまつた。トヨタの利益は1円の円高で400億円減るといわれる。30円も円高なら、それだけで1兆2000億円だ。対ユーロの円高でも1000億円単位で消えた。

さらに輸出産業にとって、円安は「濡れ手で粟(あわ)」のメカニズムがあると、早大大学院教授の野口悠紀雄氏は指摘している。日米の物価からハジキ出された適正為替レートは1ドル＝70円から80

円。それが1ドル＝110円の為替レートだと、日本の輸出業者は安く商品売れ、儲けの幅も広がる仕掛けだという。だが、それも円高で吹っ飛んだ。トヨタが2兆5000億円も利益を減らした裏には、自動車販売数減以上に、円安の恩恵が消えたメカニズムがある。日本の輸出産業にとって、円高はそれくらい怖いものなのだ。

リーマン・ショックに懲りて、日本の輸出企業は想定為替レートを95円前後に改めた。ジワジワと円高に向かう

のは避けられない。

「日本の円は決して強くないのですが、ドルもなかなか強くなれない。米景気はここに来て雇用の悪化で再び悲観論が強まっています。米国のGDPの7割が個人消費ですが、雇用悪化で財布のヒモが固くなっている。借金してクレジットで買い物をするのが普通だったアメリカ人が、貯蓄するようになった。これでは米経済は縮小してしまう。さらに世界経済の覇権が中国に移り、ドル離れを起しています。ドル安に向かう不安要因がいっぱいなのです」(城西大教授・霧島和孝氏)

財政悪化によるドル暴落やデフォルトの恐怖も指摘さ

(有)西川経営オフィスサービス  
**中村会計**  
**事務所便り**  
 2009年7月31日(金) N049  
**地域から明るい未来を作ろう**

私は生まれてこの方、皆既日食を体感したことがありません。奇蹟に直に触れると人生観が変わると言います。厳寒の白山

や北アルプスの御来光、荘厳な太陽を見た次元を遙かに超える自然現象だと想像

## ダイヤモンド

します。人類の守護神、大自然の一部の人間、心の奥底からの感動で落涙を体感すると思います。

「しんきろう」、議事堂の万歳しかしない醜い老人は八月末、日本人の品位を思い知るだろう。

弱者をいじめ抜く傲慢な自民党政権の天罰、崩壊を象徴するものです。庶民の思いを知らないずれまくる灰化し、2035年9月、あと26年後に北陸と北関東で見られるとのこと。私は生きて運良く痴呆症でもなければ体感出来ると思えます。その時、日本が世界に恥じる自立なき卑しい国家でなければ幸いです。



大相撲名古屋場所、出島関が引退表明、大関まで極めた郷土勇士の愚直なまでに押し相撲を貫くスタイル、白肌の雪国魂に心を打たれます。手を抜かず、耐え抜く根性に郷土の一人として心から敬服していただきます。諦めない姿は、私達石川県人の大きな励みと誇りです。本当にお疲れ様でした。ありがとうございます。

### 出島関

これからも奥様と力を合わせ、私達に「親方」の手本を示してほしい。

野口教授は「1ドル＝70円もある」と警告しているから、日本の輸出業者は薄氷の上を歩く心境だ。エコカー減税やエコポイントによって、国内で多少ハイブリッド車や家電が売れても、円高が再び80円台に突入したら、儲けはパーだ。輸出に頼ってきた日本経済の宿命である。

政府は選挙を意識して、景気判断を無理やり3カ月連続で引き上げたが、「100年に一度」の危機が大きな口を開けて待ち構えている事態は何も変わっていないのです。